

あらゆる組織破壊策動を許さず、新生JR東労組の旗の基に結集し、 青年部員のための運動を推し進める秋田地本青年部見解

JR東労組秋田地本青年部は、18春闘を「大敗北」と総括し、これまでの運動のあり方を反省するとともに、組合員の声を受け止める新生JR東労組運動をつくり出してきた。青年部員や離脱を余儀なくされた仲間から見て、「魅力的な組織」「魅力的な人」とはどのようなものか、一人ひとりが考えを出し合いひざ詰めの議論を行い、各職場で目指す組織像を明確にし、「自分にとっての東労組」を実感できる運動を推し進めてきた。また、18春闘大敗北の大きな要因であった「情勢認識の誤り」を繰り返さないために、世界や日本の情勢、そしてJR東日本を取り巻く現状を学び認識したうえで、「変革2027」や「新たなジョブローテーションの実施について」などの各施策に向き合い、自らの将来をみつめることを通じて、施策にどのようにむかっていくべきなのか議論を深めてきた。

そのような中、水戸・東京・八王子地本の一部の職場で、新生JR東労組運動と決別する分裂策動が進められ、ある職場では「JR東労組に残るのか」「分裂組織に行くのか」「組合を辞めるのか」の選択を迫られていることが中央本部に報告されている。脱退をした先では労働協約や協定は適用されず、組合員を何の保証も無い無防備な状態にさらすこととなり、組合員の雇用と利益を守るという労働組合の責務を放棄した行為である。このような無責任極まりない姿勢や、分裂策動を先導する者を断じて許すことはできない！良識ある組合員をだまして分裂組織に連れて行くのはやめるべきだ！

2020年1月24日に開催を予定していた第6回中央常任委員会では、水戸・東京・八王子地本の中央常任委員が無断欠席をし、中央常任委員会が成立せず破壊された。中央常任委員は各地本の青年部員の代表として、青年部員の声届け、職場や組織の現実について議論しなくてはならない。そして、今後の活動方針や組合員の利益など、重要な事項を審議し決定する役割を担っている。中央常任委員会の無断欠席は、青年部員の声を見捨て、方針を機関決定させない姿勢のあらわれであり、全青年部員に対しての背信行為である！

昨年8月に開催された「JR東労組青年部第34回定期委員会」においては、水戸・東京・八王子地本青年部から委員選挙に対して異議申し立てが提出された。あろうことか、異議申し立てに加え、選挙管理委員会の発行文書や役員選挙規則までもホームページに掲載し、その結果5ちゃんねるに委員の名前が流出した。定期委員会に参加した委員や青年部員から怒りの声が出されていたにも関わらず、「決意して定期委員会の委員になっている。名前が出ることに何の問題があるのか？」など開き直りとも捉えられる姿勢であった。また、20春闘においても「所定昇給額を算出基礎にしないべア」を求めていくという独自方針を勝手に打ち出し、「これは東京地本青年部600名の総意だ」とも語られていた。さらに1月には、東京地本青年部情報紙「FAX飛躍」にて中央本部を批判する内容が出されている。これら一連の行動は、12地本の総団結を阻害する要因であり、断じて容認することはできない！新生JR東労組に対する組織混乱を煽り、組織の分裂策動を行う者とは断固としてたたかう！それが青年部員と新たな決意でつくり上げてきた新生JR東労組秋田地本青年部の総意である。

私たち青年部員は変革2027をはじめとした施策を担う当事者となる。多くの青年部員は労使協約・協定に沿って、対立だけの労使関係ではなく、お互いに信義誠実に向き合う労使関係を望んでいる。労使関係を否定するだけの分裂組織に未来はない。東労組の旗の基に結集し、組合員のための運動をつくり上げることを明らかにし、見解とする。

2020年1月28日
東日本旅客鉄道労働組合
秋田地本青年部